

諸角せつ子さん死去

89歳、元神奈川俳壇選者

本紙神奈川俳壇選者を長く務めた俳人の諸角せつ子（もろすみ・せつこ）さんが1月11日午後11時、病気のため、横浜市内の病院で死去した。89歳。同市南区



出身。葬儀は親族のみで行った。

同市立女子専修学校卒。俳句結社「寒雷」で加藤楸邨に師事。「海程」などで活躍した。1972年、古沢太穂が主宰した「道標」の中心的な同人となって運営を担い、古沢の跡を継ぎ、98年から終刊となる2017年まで主宰した。県現代俳句協会、横浜俳話会、横

浜文芸懇話会などの会長を歴任、神奈川の文芸の振興に尽力した。00年から17年3月まで本紙「神奈川俳壇」選者。主な句集に「荒踊り」「網膜の花」「権太坂」などがある。（文化部）

横浜の文学振興尽力

神奈川大学名誉教授・復本一郎さんの話。故古沢太穂さんから受け継いだ「道標」を最後まで充実したものとし、社会性に富んだ現代俳句の世界を切り開いた。明るい人柄で地元を愛し、俳句にとどまらず広く横浜の文学の振興に尽くされた。